



# 松原はいつから 人の集う場所に？

日峯社ができた直後から出店が立ち始めました。



にっ

ぼうしゃ  
峯社ができて間もないころ、城下に住む茂兵衛

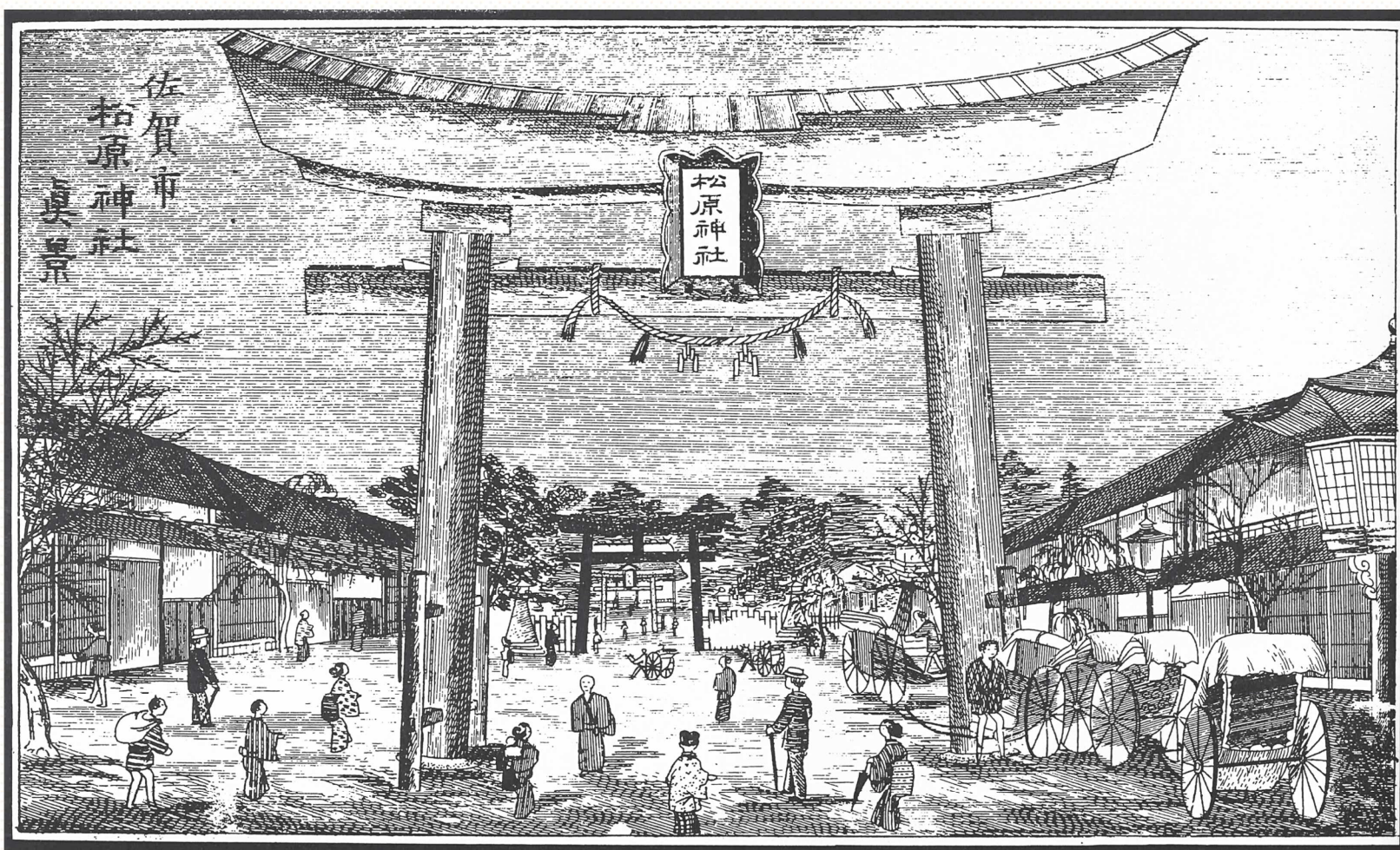
という人物から、門前に茶屋を出店したいとい

う請願が藩に出されました。「大切なお宮の門前ですから粗末な商品を取り扱わず、周辺の掃除も行います」とのことで藩は許可しました。

ところがその後、「日峯社の門前の掃除が不行き届きである。大事なお宮だから周辺が見苦しくてはならない。今後は社人から出店者に命じてきちんと掃除させるように」と藩から命令が出されています。\*

やがて門前には石づくりの鳥居が建ち(現存)、直茂公没後200年にあたる文化14年(1817)には参道(新馬場)が拓かれ、このとき千栗土居の杉材で木製鳥居や銅の鳥居も建立されました。

お宮ができ、次第に参道や門前も整備され、参拝者が集うとともに商いの場も生まれました。のちの時代に新馬場には旅館、周辺には映画館など娯楽施設が軒を連ねる松原周辺の賑わい端緒は日峯社にあったと言えるでしょう。 \*「泰国院様御年譜地取」鍋島報効会所蔵/佐賀県立図書館寄託(鍋島家文庫)



現在の大財通りから松原神社方面を見た明治時代の参道(新馬場)の様子。両脇には旅館などが建ち並び人力車が見える。

『明治銅版画 佐賀縣案内(復刻版)』青潮社、昭和58年  
原本は中谷與助編『佐賀縣案内』(一名商工便覧)明治23年、龍泉堂